

第132回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題・解答

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

| | | | |
|---------------|---------------|-----------|-------------------|
| 現 金 | 当 座 預 金 | 受 取 手 形 | 売 掛 金 |
| 未 収 入 金 | 前 払 金 | 仮 払 消 費 税 | 建 物 |
| 備 品 | 支 払 手 形 | 買 掛 金 | 前 受 金 |
| 未 払 消 費 税 | 仮 受 消 費 税 | 修 繕 引 当 金 | 備 品 減 価 償 却 累 計 額 |
| 売 上 | 固 定 資 産 売 却 益 | 仕 入 | 減 価 償 却 費 |
| 修 繕 費 | 発 送 費 | 支 払 手 数 料 | 租 税 公 課 |
| 固 定 資 産 売 却 損 | 固 定 資 産 除 却 損 | | |

1. 当期首に、建物（取得原価：¥ 6,000,000、残存価額：¥ 600,000、耐用年数：10年、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）について修繕を行い、代金 ¥ 1,000,000 は小切手を振り出して支払った。なお、このうち ¥ 600,000 は建物の耐震機能を向上させる効果があるものと認められた。修繕引当金の残高は ¥ 300,000 である。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. 武田商事株式会社は、決算にあたり、商品売買取引に係る消費税の納付額を計算し、これを確定した。なお、消費税の仮払分は ¥ 90,000、仮受分は ¥ 110,000 であり、消費税の記帳方法として税抜方式を採用している。
4. 高坂商店（年1回12月末決算）は、平成24年4月30日に備品を ¥ 350,000 で売却し、代金は翌月下旬に受け取ることとした。この備品は平成16年1月1日に購入したものであり（購入代価：¥ 1,000,000、据付費：¥ 200,000）、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は12年、償却方法は定額法、記帳方法は間接法によって減価償却を行なっている。なお、当期首から売却時までの減価償却費は月割計算して計上する。
5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

・解答

| | 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|----|-------------------|---------|-------------------|-----------|
| 1 | 建 物 | 600,000 | 当 座 預 金 | 1,000,000 |
| | 修 繕 引 当 金 | 300,000 | | |
| | 修 繕 費 | 100,000 | | |
| 3 | 仮 受 消 費 税 | 110,000 | 仮 払 消 費 税 | 90,000 |
| | | | 未 払 消 費 税 | 20,000 |
| 4 | 減 価 償 却 費 | 30,000 | 備 品 | 1,200,000 |
| | 備 品 減 価 償 却 累 計 額 | 720,000 | | |
| | 未 収 入 金 | 350,000 | | |
| | 固 定 資 産 売 却 損 | 100,000 | | |
| 別解 | 減 価 償 却 費 | 30,000 | 備 品 減 価 償 却 累 計 額 | 30,000 |
| | 備 品 減 価 償 却 累 計 額 | 750,000 | 備 品 | 1,200,000 |
| | 未 収 入 金 | 350,000 | | |
| | 固 定 資 産 売 却 損 | 100,000 | | |